

「寛骨臼移動術（SPO）後の下肢筋力と歩行速度の推移」 について

加古川中央市民病院リハビリテーション室では、現在、入院患者さんのうち寛骨臼移動術（以下SPO）が施術された患者さんを対象に以下の研究を実施しております。

尚、この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

【研究概要及び利用目的】

股関節の臼蓋形成不全において従来は寛骨臼回転骨切り術（以下；RAO）が施行されてきましたが、RAOは中殿筋を切離する等術中侵襲が大きいとため、術後のベッド上安静期間が長くなり、筋力も低下するため入院期間は長くなっていました。

当院では、中殿筋を温存する寛骨臼移動術（以下 SPO）が施行されています。SPOは術後ベッド上安静が短く、術後の筋力等の回復期間も短縮できるといわれています。

SPOを実施している施設は限られているので、SPO術後の下肢筋力・歩行速度の推移についての報告は少ない。それゆえ当院のSPO術後の患者さんの経時的な下肢筋力・歩行速度を明らかにすることは、今後のSPOの術後理学療法の回復指標となると考えています。

【研究期間】

研究期間：院長許可日～ 2022年 10月 29日

研究対象期間：2018年 12月 1日～2021年 4月 30日

【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

2018年12月1日～2021年4月30日の間にSOP手術が施行された患者さんの下記データを診療録より収集いたします。

患者情報：身長、体重、年齢、性別等

測定データ：術前・術後3ヶ月・術後6ヶ月・術後1年の股関節外転筋力・膝関節伸展筋力・10m歩行速度

【個人情報保護の方法】

すべての患者さんの情報は、第3者にはその情報が誰のものかわからないように仮名加工情報表を作成して研究をすすめます。研究成果を報告する時も個人が識別されないように行います。この研究に参加していただいた患者さんの個人情報については、本研究に関わる全ての研究者が守秘義務を順守するように徹底いたします。個人情報を外部機関へ提供することはありません。患者さんの個人情報は研究責任者が責任をもって保管します。

【データおよび試料提供による利益・不利益】

利益・・・本研究にデータをご提供いただく事で生じる個人の利益は特にありませんが、本研究結果が今後の治療の向上に有用となる可能性があります。

不利益・・・カルテからのデータ収集のみであるため、不利益は特にありません。

【登録終了後のデータおよび試薬の取り扱いについて】

この研究で利用させて頂くデータは、カルテから情報を得た時点で氏名、住所、生年月日等の個人を特定できないよう仮名加工情報表を作成します。

本研究において取得した試料や情報等は、研究期間中は古川中央市民病院において厳重に保管いたします。研究終了後も少なくとも本研究の終了報告日から5年を経過した日または本研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過したいずれか遅い日までの期間、当院内のデータベース内のみで管理し、プリントアウトや外部持ち出しは行いません。患者さん及びその家族等から参加拒否または同意撤回があった場合には、その患者さんに関するデータはすみやかに廃棄します。

【研究成果の公表について】

研究対象患者さんへの研究成果の開示やフィードバックはありませんが、研究結果は患者さんの個人情報が見えにならないようにして、学会や学術雑誌で公表します。

【研究へのデータ使用の取りやめについて】

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術研究ですが、ご自身の診療情報等が利用されることを望まれない時、患者さんは研究参加を拒否する権利があります。研究参加を拒否したい時には、下記までご連絡ください。研究対象から除外いたします。なお、研究協力を拒否されても、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

【問い合わせ窓口】

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい時や、患者さんのデータの使用を望まれない時など、この研究に関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 診療支援部 リハビリテーション室
研究責任者名 畑 知宏
連絡先：079-451-5500